

春のでたらめ ● 桜望子

花筏結局どこにも行けなくて地元で就職するわたしたち
きみとなら結婚したいなって思う 桜まじ花びら食べちゃった
まじかってそんなわけないじゃん私たち女同士じゃん万愚説
同性を愛した人が落ちるらしい地獄のあつて春のでたらめ
いつかみんな死んじやうんだねわかつてるスーパーで買う旬の新たな
愛されるわけないじゃんて 包丁でいつも切っちゃう左の親指
人間のふりして作る味噌汁の綺麗に切り分けられてく豆腐
女の子はやっぱり料理が上手ねというひとに「得意なんです」と返す
子を孕む夢 目覚めれば空白のある身体だけ取り残されて
中学の頃はショートにばかりした 捨ててしまいたかった女性性
母親の花壇は食べられる野菜ばかり植えられ 菜の花を積む
女であることをやめたいわけじゃなく男になりたくもなく 桜
少しくらい女は馬鹿がいいんだって言われてひらがなっぽくしゃべる
東京で彼氏はできた？ときかれたら笑うのが正しいこの町は
春になれば劇的に変わるわけがなくゆつくりとける雪から新芽
五つのうち四つ摘まれる林檎の花 選ばれぬことに麻痺していつて
道路わき狸の死がいは放置され誰かが置いた菜の花ひとつ
また明日また明日って駆けてゆくランドセルにはクマよけの鈴
わたしだけ地獄に落ちてしまうかな 春陽にぬくまってゆく田んぼ
苦いものだらけだ春の味覚って汚れた指を洗う井戸水